

# AKAYA PROJECT

赤谷プロジェクト地域協議会 / (公財) 日本自然保護協会 / 林野庁関東森林管理局

## 赤谷の森だより

2017.08.15

vol. 35

赤谷の森でわかったこと

### 「南ヶ谷湿地の自然環境」

赤谷プロジェクトサポーター

竹村 秀雄

トピックス

● 地域と繋がる赤谷プロジェクト

桐匠根津代表 根津 公安

● 「みなかみユネスコエコパーク」が誕生しました！

みなかみ町エコパーク推進課課長 高田 悟

初夏の南ヶ谷湿地

### 赤谷の森 ミニ写真館

今回のテーマ

### 彩り豊かな森の昆虫たち

(写真提供：サポーター竹村さん)



オオトラハナムグリ



ドロハマキチョッキリ



ヤツホシツツハムシ



ベニヒラタムシ

赤谷の森で  
わかつたこと

# 南ヶ谷湿地の 自然環境

南ヶ谷湿地は大峰山の中腹標高1000mに位置する小さな湿地です。昔は菅笠の材料等を探るために訪れる人がいたようですが、2006年に赤谷プロジェクト関係者が初めて行った頃には人々から忘れられた存在となっていました。2007年にモウセンゴケやハツチヨウトンボ等貴重な植物・昆虫が見つかったことから、赤谷プロジェクトのサポーターである私たちが2008年から月に1回調査をするようになりました。

すると、クロサンショウウオの卵塊が約3000個、モリアオガエルの卵塊が140個ほど見られ、ヘイケボタルが数百匹飛ぶだけでなく、オゼイトトンボ等も沢山飛んでいました。また、

ミツガシワ、サワギキョウ、トキソウ、ヒツジグサ、ミズチドリのほか、湿地周辺でもカタクリ、シロバナエンレイソウ、オノノヤガラ、ミミブサタケ等貴重な植物が次々と見つかりました。絶滅危惧種も多い貴重な湿地であることがわかりました。

しかし、昔は大きな池だった南ヶ谷湿地ですが、現在は開放水面がわずかにあるだけ。雨が降らない日が少し続くだけで干上がる恐れがあるという、大きな問題を抱えています。

原因はいろいろ考えられますが、ヨシの進出、水路が深くなり湿地内の水が抜けやすくなったことによる湿地の乾燥化、落ち葉の堆積で水深が浅くなっ

たことなどが影響しているのではないかと思います。

そこで私たちは、貴重な湿地に余計なダメージを与えないため、大鎌を使ってヨシ刈りをするともに、クロサンショウウオやモリアオガエルの産卵場所である開放水面の浚渫を手掘りで行ってきました。平均年齢の高い私たちには負担が大きかったのですが、昨年からは大学生等若手の応援が得られるようになり、湿地保全作業が格段に進みました。

このほか、水路に低い高さの堰を設置し、湿地周辺の杉林の間伐のときには赤谷センターと話し合い、土砂が湿地に流入しないよう十分配慮した施策に変更してもらいました。

長い目で見なければいけません、減少傾向にあったクロサンショウウオ、モリアオガエルの産卵が持ち直しを見せ、湿生植物も増えてきた感じがします。

南ヶ谷湿地の貴重な動植物を末長く残していくため、人の手をどの程度加えてもよいかプロジェクト関係者と毎年話し合いながら、計画的に保全活動に取り組んでいきます。



クロサンショウウオの卵塊とモリアオガエルの産卵



トキソウとサワギキョウ



湿地保全のための浚渫作業の様子

writer...



赤谷プロジェクトサポーター  
竹村 秀雄

## 地域と繋がる赤谷プロジェクト

### 桐匠 根津

代表  
根津 公安さん

自己紹介と普段取り組んでいること(仕事含む)を教えてください。

みなかみ町で桐たんすなどの桐製品を専門に製作している「桐匠 根津」です。今年で創業100年を迎える事が出来ました。新潟県の国産材だけを使って、まな板など日常で使える桐雑貨も製作販売しています。



赤谷プロジェクト関係者と知り合ったきっかけを教えてください。

最初のきっかけは、「森の恵みと学びの家」で「『赤谷プロジェクト』とは何か?」を市毛さんと話した事でした。その後、日本自然保護協会の方ともお会いする機会があり、工房にも来て頂きました。

今後、赤谷プロジェクト関係者と行ってみたい企画等がありましたらお願いします。

大人も楽しめる自然遊びも多く企画してみたいですね。子供に遊びの楽しさを伝えるのは大人だと思います。大人が楽しんでい



る姿を見れば、子供達も必然的に木や自然にもっと興味を持ってくれるはず。今まで培った技術で赤谷の木を使った桐以外の製品に挑戦して、新たな地元ブランドが出来たら面白いですね。



工房のPRを一言!お願いします。

日常的に気軽に使える物もありますので、ぜひ工房に遊びに来て手にとってみてください。人肌に馴染むとても優しい木ですよ。

## 「みなかみユネスコエコパーク」が誕生しました!

去る6月14日、パリのユネスコ本部にて開催された第29回人間と生物圏計画国際調整理事会において、みなかみ町全域が「生物圏保存地域(英名:Biosphere Reserves、国内呼称:ユネスコエコパーク)」に登録されることが決定しました。

ユネスコエコパークとは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和を実現しているモデル的な地域であり、自然と人間社会の共生に重点が置かれることが特徴です。この理念は、まさに「赤谷プロジェクト」の目指すものと合致しており、このような取組が地域で継続されてきたことが高く評価され今回の登録に繋がったと言えます。

首都圏の暮らしを支える利根川源流の防人として、豊かな自然を守り共生してきた先人達の営みが世界基準で認められたことに誇りを持ち、未来を担う子供たちにこの素晴



↑ユネスコの会議で議長と

(胸にかけているのは、赤谷PRJで復活したカスタネットで作った登録記念の「木んメダル!」です。シリアルナンバー001を贈呈しました!)



らしい環境を引き継いでいくことを目標に、世界中から愛されるみなかみ町を目指してまちづくりを進めて参ります。

みなかみ町エコパーク推進課 課長 高田 悟

### 赤谷プロジェクトに関するイベント予定

#### 赤谷の森自然散策(秋)

開催日: H.29.10.21(土)

・赤セ主催イベントの詳細等は準備ができ次第赤セHPで掲載いたします。



#### 着任のご挨拶 H29.04.01

関東森林管理局森林整備部赤谷森林ふれあい推進センター 自然再生指導官 齋藤 一広 (さいとう かずひろ)

4月に着任しました齋藤と申します。赤谷プロジェクトに参加するのは初めてですが、多くの人とコミュニケーションを図りながら、プロジェクト推進のため精一杯動めたいと思っていますので、よろしくお願いします。





色々な活動をしているよ!

## 赤谷プロジェクトの活動

# トピックス



H28.11.8

**akayaカフェ～寺田本家に学ぶ自然の恵みの活かし方～**  
利根川のつながりから千葉の蔵元を招き、米と酒造りを通じた地域づくりについて学びました。



H29.2.4

**みなかみ町環境学習発表会**  
プロジェクトの展示とネイチャークラフトで参加しました。新治小からは赤谷の森の発表がありました。



H29.2.11

**赤谷の森自然散策～冬の森で「いきもの」たちを感じよう!～**  
スノーシューで散策や雪遊びをした後、森や動物の民話や紙芝居を鑑賞しました。



H29.3.5

**akayaカフェ～草木染めで奥利根300年の森の恵みと出逢う～**  
森の巨人百選の「ブナ太郎」や様々な樹種から作った染料で、染め物体験を行いました。



H29.5.14～5.15

**放送大学面接授業**  
生物多様性の復元や、持続的な地域づくりに向けたプロジェクトの取組を紹介しました。



H29.5.15/5.21/6.4

**森の探検ウォークラリー (花園中・貝塚中・打瀬中)**  
赤谷の森のいきもの、森と私たちのつながりについて学習しました。



H29.5.20

**赤谷の森自然散策～花と緑と紙芝居～**  
新緑とニリンソウなどの花に囲まれて散策し、民話と紙芝居で楽しい時間を過ごしました。



H29.7.22～23

**みなかみ町木育キャラバン**  
プロジェクトの展示やネイチャークラフトで参加し、多くの方に体験いただきました。



H29.7.26

**新治小サマースクール**  
プロジェクト3者が講師になり、森のいきものや森と私たちのつながりについて学びました。

## 赤谷プロジェクト、って?

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者が共に活動するという、全国的にもめずらしい取組です。

活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる約1万 ha (10km四方)の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生き物の調査・研究、環境教育、研修の受入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

※トピックスの詳細は

[赤谷森林ふれあい推進センター](#)

[検索](#)



## 赤谷プロジェクトサポーター募集!

(たくさんの笑顔がまっています (^o^)/)



赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。活動の中で研修の機会を豊富に用意しているため、自然や野外活動の知識や経験がないと心配される方も、学びつつ活動に参加できます。

■お問合せ先

(公財)日本自然保護協会：松井・島

[赤谷の森・基本構想掲載サイト](#)

赤谷プロジェクトの目標や取組内容などについて詳しく知りたい方はこちらをご覧ください。

[http://www.nacsj.or.jp/akaya/ap\\_masterplan.html](http://www.nacsj.or.jp/akaya/ap_masterplan.html) (公財)日本自然保護協会

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/akaya/akayanomori-kihonkousou2015.html> 林野庁関東森林管理局赤谷森林ふれあい推進センター

この情報誌は、間伐材利用の紙を使用しています。

赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-25-8777

※森の恵みと学びの案内

理事(事務担当) 市毛 亮

メールアドレス m-ichige@takuminosato.or.jp

(公財)日本自然保護協会【NACS-J】

TEL 03-3553-4107

プロジェクト担当 松井 宏宇

<http://www.nacsj.or.jp/akaya/index.html>

メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局  
赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長 魚住 悠哉

[http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya\\_fc/index.html](http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html)

メールアドレス ks\_akaya\_postmaster@maff.go.jp